



2016.10.13
第161号

発行
福島県市町村 教育委員会 連絡協議会 北会津支部 耶麻沼支部
編集
福島県教育庁 会津教育事務所
編集協力
小・中学校長会

今こそ、「チーム会津」!!



会津教育事務所
業務次長兼学校教育課長

唐 司 和 彦

今年の夏は、リオ五輪があったため、例年以上に暑い暑い夏だった。五輪開催中、連日のように、「日本人初」「史上初」「〇〇年ぶり」「金星」と、日本人選手のメダルラッシュが伝えられた。また、メダルには届かなかったものの大健闘した種目や競技もあり、これまで以上に日本人選手の活躍が際立つ大会だった。これらの活躍は、選手のためには、選手を支えた監督やコーチ、そして医療や栄養等のスタッフによる「チームジャパン」としての成果だったと思う。四年後は東

京五輪、「チームジャパン」のさらなる活躍が楽しみである。さて、同じ四年後、教育界では、次期学習指導要領が小学校から順次実施される。また、高大接続改革の一つとして新大入試の実施も予定されている。小学校から大学まで一貫して行われるという点では、これまでにない大きな教育改革になる。もちろん、現在の教育から大きく舵を切るものではない。現行学習指導要領で求められているものを強化したり、一貫性をもたせたりするもので、日本の子どもたちに、世界で活躍するた

めに必要な力や急激な社会の変化に対応できる力を身に付けさせるためのものである。

現在、各学校では、四年後を見据え、「アクティブラーニング」等の視点から授業改善が進められている。その成果を確かなものにするには、研究授業単体でのチャレンジや個人の実践のみに終わることなく、全教職員による組織的・継続的な実践により、子どもに学び方として定着させることが大切である。

さらに、その取組を家庭や地域に開き、学校・家庭・地域が一体となって教育活動を推進することが必要である。そして、これらの取組が幼・小・中・高それぞれの校種間で確実にリリースされることで、会津の子どもたちの「生きる力」の育成につながることを思う。

今こそ、「チーム会津」としての団結が期待される。

前期の所長・管理訪問から

前期は、小中学校59校を訪問いたしました。生き生きと取り組む児童生徒の姿や、児童生徒の主体的な学習を引き出すための働きかけを工夫する先生方の姿に触れることができました。

校長先生との話し合いでは、学力向上や生徒指導の充実、小中連携に教職員一人一人が積極的に関わり、組織的に実践していることを実感しました。

少人数教育や各種加配については、ねらいや目的、学校の実態を踏まえて適切かつ有効な活用が求められています。そして、数値的な部分を含めて成果を明確に示せる取組をお願いします。

人事評価については、研修会を踏まえて適切な評価や効果的な面談に心がけていただいています。人事評価の目的である教職員の能力開発や教育活動の充実、組織の活性化につなげられるよう、有効に活用してほしいと思います。

勤務の適正化については、教職員の勤務時間の把握がなされ、各学校で工夫されている様子が見られます。

教職員の多忙化解消や子どもと向き合う時間の確保、教職員の心身の健康保持の観点から今後ともご配慮ください。

不祥事防止については、各学校で校内服務倫理委員会の工夫や風通しのよい職場づくりなどに取り組んでいました。この一学期、交通加害事故（追突）はありました。昨年同時期よりは減少しています。ただ、県全体としては、相変わらず不祥事が発生しています。

不祥事防止のための行動計画の検証や個別面談など、一人一人の教職員の危機管理意識を高める取組を具体的にお願いします。

学校事故防止や事故対応については、施設設備の操作が誰でもできるような配慮、校舎の構造や季節など様々な状況を踏まえた避難経路の検討、管理職不在なども想定した危機管理マニュアルの見直しをお願いします。また、小さな変化や危険に気付く目を大切にして、防火診断や安全点検に基づく改善・整備を改めてお願いします。

総務社会教育課だより

【これまでに実施した主な事業】

1 学校・家庭・地域連携サポート事業 放課後子ども教室研修会

- (1)日 時：平成28年7月28日(木)
 (2)会 場：道の駅あいづ 湯川・会津坂下
 (3)内 容：事例発表、グループ協議、
 科学工作ワークショップ
 (4)参加者：放課後子ども教室関係者、放課後児童クラブ
 関係者、行政担当者、地域ボランティア等
 75名



◇事例発表「西郷村放課後子ども教室の取組～成果と課題、そして今、思っていること～」

・講師：西郷村放課後子ども
 教室コーディネーター
 露木則子氏

・内容：西郷村放課後子ども
 教室は、平成26年
 度文部科学大臣表彰
 を受賞しており、特
 色ある取組について、
 説明していただきました。



◇グループ協議

それぞれの子ども教室にお
 ける成果と課題を共有しな
 がら、今後の事業推進に向
 け、有意義な話し合いが行われ
 ました。



◇科学工作ワークショップ「宇宙教育に触れてみよう～ 社会教育編」

・講師：JAXA（宇宙航空研
 究開発機構）宇宙教育推進室
 渡邊 敦氏

・内容：宇宙の不思議や、面白
 さについて、宇宙教育教材を
 使って体験的に学びました。



～社会教育関係事業の紹介～

2 第1回読書活動支援者育成事業 会津地区研修会（基礎編）

(1)日 時：平成28年9月8日(木)

(2)会 場：会津大学

(3)参加者：司書、読み聞かせ、
 読書ボランティア等 79名

◇絵本らいぶ「絵本・読み聞か せの魅力」

・絵本講師 福島はるお氏

◇講義「学校司書の役割」

・元県立高校学校司書 長崎キヨ子氏

◇実践発表「読み聞かせボランティアのやりがい」

・矢祭町「手のひらの会」郡司浩子氏



3 第2回読書活動支援者育成事業 会津地区研修会（実践編）

(1)日 時：平成28年10月4日(火)

(2)会 場：会津大学

(3)対象者：司書、読み聞かせ、読書ボランティア等

【これから実施する主な事業】

4 学校支援実践研修会

(1)日 時：平成28年10月14日(金)

(2)会 場：喜多方プラザ文化センター

(3)対象者：学校支援コーディネーター、学校関係者、ボ
 ランティア等

5 家庭教育支援事業「親子の学び応援講座」

(1)平成28年10月29日(土) 認定こども園ひかり

(2)平成28年11月27日(日) 新鶴公民館

(3)平成28年12月15日(木) 宮川小学校



『子どもたちの生き抜く力を支える「確かな学力」の育成』のために

『躍動！「チームふくしま」』は、平成28年度アク
 ションプランの推進テーマです。それを受け会津教育事
 務所では、会津の児童生徒の夢や希望の実現に向けて、
 県教育委員会施策を推進するとともに、各市町村・各学
 校における教育活動充実のための支援に取り組んでいま
 す。

特に、次の3つを柱として、子どもたちの生き抜く力
 を支える「確かな学力」の向上に努めています。

◎「確かな学力」の向上を図る継続的な検証改善サイク ルの確立

(方策) ・P D C Aサイクルを明確にした学力向上グラ
 ンドデザイン的全職員の共通理解に基づいた
 確実な実践・改善に向けた指導

(目標) ・定着確認シートを計画的・組織的に活用する
 学校
 ・学力調査の自校の目標値達成へ向けて計画的・
 組織的に取組む学校

◎「確かな学力」の向上を図る授業づくり

(方策) ・問題解決的な学習を中軸とした授業実践の指
 導・助言
 ・『わかる・できる授業』実践の具体的な方策
 の指導・助言とHP掲載

- ・言語活動の充実を図るための具体的方策の指
 導・助言とHP掲載
- ・コアティーチャー等を活用した授業研究会や
 学力調査を生かした授業や研修会の工夫
- (目標) ・問題解決的な学習を中軸とした授業に改善す
 る学校
- ・事務所のHP資料等（各種指導資料・客観的
 データ）を活用した校内研修を実践する学校

◎「確かな学力」の向上を支える基礎づくり（学習習慣・ 生活習慣の確立）

- (方策) ・学習習慣や生活習慣の確立への指導・助言
 ・授業と家庭学習のサイクル確立への指導・助
 言
- (目標) ・幼小中連携による学習・生活習慣を向上させ
 るための系統的な共通実践をする学校
 ・授業と家庭学習のつながりを明確にした学習
 サイクルを構築する学校

※今、学校の教育力が問われています。教育力を高める
 ためには、授業力の向上が欠かせません。各学校にお
 いては、校長先生のリーダーシップのもと、教員一人
 一人が自分の授業の課題を明確にし、同僚性・協働性
 を高めながら、現職教育の充実を図ることが大切です。



「金山町の学校教育」

金山町教育委員会教育長 滝沢 敬樹

金山では、人口の高齢化率は60%に迫り、少子化もますます進んでいます。高齢化、少子化では全国の最先端の状況であります。住民の一人一人が生き生きと過ごせる明るく元気な町作りを目指しています。そのために教育委員会では、次の3つのことに力を入れています。

①地域一体型ふるさと教育事業の推進

「奥会津金山学びの18年」のキャッチフレーズのもと、保・小・中・高の教育の連携と地域の教育力の再生により、将来を担う人材の育成を18年間通して進めています。

また、子育て支援事業の拡充を図っています。例えば、保育料、小中学校の給食費教材費、修学旅行費などの無料化、高校生の寮費、通学費の半額補助、学習支援、部活動支援などです。

②「少ないことはいいことだ。」

児童生徒数減少での、デメリットは大きいですが、良い面もたくさんあります。先生によく見てもらえる。発言がたくさんできる。いつも安定した環境で落ち着いた生活ができる等々です。各学校では、良さを生かした教育を進めています。

また、全学年複式学級になっていますが、町で講師を学校に配置し、主要教科については、学年別に指導できる体制をとっています。

③「つなぐ教育」の推進

平成28年度、金山では県教育委員会より「つなぐ教育」推進事業の指定を受け保・小・中・高を繋いだ学力の向上を進めています。町では、以前から川口高校を含めて、学力向上推進会議を開催してきましたが、金山中学校を核として高校卒業までを見通した地域の連携のあり方を模索していきたいと考えています。

我がまちからの情報発信

昭和村教育委員会

昭和学講座、この良きもの

「からむしだけは絶やすなよ」

村の中で、いったいどれほどの歳月、この言葉が発せられてきたことでしょうか。親から子へ、子から孫へ、孫からひ孫へ、幾百年の昔から。

腰のまがったおじいさんが言いました。白髪のおばあさんが言いました。恥ずかしそうに言いました。遠くを見つめる目で言いました。

「昭和学講座だけは、やめねえでくんつえ」

「昭和村に生まれたことに感謝し、昭和村で育つことに自信と希望を持ち、昭和村で生きること誇りと生きがいを抱くことができるように」との願いを込めて実施している昭和学講座です。平成25年度から始め、今年度で4年目を迎えました。学校教育・社会教育・生涯学習の連携を図ろうとする地元学です。これまでの実施回数は34回。今年度のうちにあと6回予定しています。

月に1回程度、主に土曜日の午後、昭和村公民館を会場として開催しています。昭和村に関連するテーマを設定し、講師も村内外からお招きしています。ある時は村のおばあさん、ある時は元「織姫」さん、ある時は民具や民俗学の研究者。

- ★からむしと生きる ～朝は朝星、夜は夜星～
- ★わが親の教えたまひし歌
～忘れ得ぬ父と母の姿～
- ★死線をこえて ～語り継ぐ戦争体験～
- ★見えないものに祈る
～聞き書きから学ぶこと～
- ★木地師の人生 ～山に生きた人々～
- ★明日への伝言 ～奥会津というたからもの～
- ★わたしたちの郷土を支えた人々
～激動の時代の中で～
- ★織りを求めて ～世界各地の人々との出会い～
・・・こんなテーマでやっています。

詳細は昭和村のホームページで確認できます。村外の方でも大歓迎。ぜひ、ご参加ください。

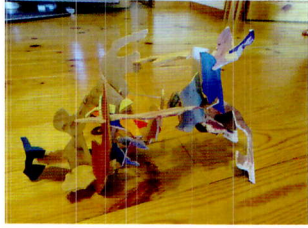


ある日の昭和学講座の一場面

作品と指導

工作

『糸のこスイスイ』



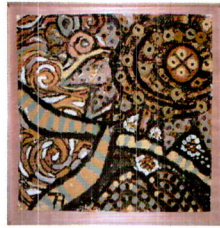
喜多方市立姥堂小学校
5年 工藤 慎央

電動糸のこぎりを使って切り出したおもしろい形を組み合わせて立体に表しました。切り込みを入れる場所や方向を工夫することでどんどん形が変わる楽しさを味わうことができました。最後に絵の具で色をつけ、イメージを更に広げることができました。

指導者 鈴木 祐太郎

絵画

『思い出の夏』



会津若松市立第一中学校
2年 長谷川 哲平

県立美術館のワークショップで体験した手法で描きました。身近な場所にある"土"を材料に、絵の具を作るところからはじまります。土の絵の具の持つ力に導かれ、大きな画面にたくさんの夏の思い出をちりばめました。

指導者 浅倉 佐知子

習字

『地球』



柳津町立西山中学校
一年 金子 花

漢字の筆使いを学ぶため、この「地球」を書く前に点画の筆使いを1つ1つ確認してから書きました。何度も書き直して、納得のいく大きくてしっかりとした字を書くことができました。

指導者 雨宮 史浩

北に飯豊連峰を望み、シーズンには群生地の一山一面にひめさゆりの可憐な花が咲き乱れる自然環境豊かな地に学校があります。「学校田での米づくり」や「まごころ野菜給食」に象徴されるように、学校と地域が強い絆のもと、ふるさとを愛し、郷土と自分に誇りと自信が持てる生徒の育成を目指し、日々の教育活動に取り組んでいます。子どもたちは無限の可能性を秘めています。その可能性を引き出し、伸ばすのは我々教師の役目です。小規模校であることを強みと捉えて、生徒一人一人の良さに目を向け、学校・家庭・地域が一体となって、少人数だからこそできる特色ある教育活動の充実に努めていきたいと考えています。



喜多方市立
会北中学校
校長
高山 良勝

地域との絆を大切に

私の抱負

「笑顔、あいさつ、思いやり」今年の職員間の合言葉です。交流の家に着任して五ヶ月が過ぎました。ようやく仕事にも慣れてきて充実した毎日を過ごしています。小学校教諭の頃と違って交流の家を利用して頂く方々に気持ちよく使ってもらえることを一番に考えて日々努力しています。利用して下さった団体の方のアンケートに「職員の方々の温かい対応に感謝します。またよろしく願います。」といった内容を読むと、とてもすがすがしい気持ちになりました。また心が引き締まる思いです。忙しく右往左往することもありますが、そんな時こそ、「笑顔、あいさつ、思いやり」を忘れず、利用者の方々への思い出のお手伝いができるよう頑張りたいです。



国立警梯
青少年交流の家
企画指導専門職
齋藤 真二

「出会いを大切に」

坂下南小学校に赴任してから五ヶ月が過ぎました。純朴で素直な子どもと共に過ごす学校生活で、教師としてのやりがいや喜びを感じることもできる充実した日々を送らせていただいています。学級担任として、教師の責任を感じながら一日一日を無我夢中で過ごしてきました。困ったり、悩んだりしている時にも、励ましの確かなアドバイスをして下さる諸先輩方や、温かく見守って下さる保護者や地域の方々など多くの人に支えられながら過ごしてきました。初任研では、切磋琢磨できる仲間存在をとても心強く感じました。支えていただいている皆様への感謝を忘れず、学び続ける教師として教育活動に全力でトライしていきます。



会津坂下町立
坂下南小学校
教諭
早川 優

日々前進